

アメリカン・キルトの研究 (2) —西部開拓者の生活とキルト

尚綱女短大 玉田 真紀

目的 西部開拓期にキルトはどのように使われ、どんな役割を持っていたのか、アメリカの歴史的背景をふまえて、さらに、開拓者の生活を記載した小説、日記などを資料として、キルトの位置づけを明らかにした。

方法 主として、L. I. ワイルダーの小説を用い、キルトの役割を収集、整理した。一連の作品は、開拓者の両親や夫の話をもとに、自らの子供時代から結婚生活までの経験を書き残した作品で、裁縫、服装、洗濯、食事、家作り、農作業、家畜の世話、冬仕度など19世紀末の開拓者の生活が克明に描かれており、キルトの記載も多い。

結果 キルトは、未開の厳しい自然環境の中で身体を保護するために、また、簡素な家や乏しい物資の中で生活を快適にし、特に女性にとっては、孤独で耐えがたい気持ちを精神的に支えるものとして役割を果たしてきたことがわかった。旅の間は幌馬車や船の中で、防寒具や壊れ物を包む道具として、キャンプ地では敷物としても使われた。フロンティアの家ではベットカバーとしてだけでなく、ドアや部屋の境として代用された。キルトがいかに丸太小屋や芝土の家を家らしく飾るのに重要だったかを綴った記載は多い。東部で育ち教育を受けた女性が開拓者には多かったので、キルト作りなど針仕事のしつけに、誇りをもって生きる女性の精神が反映されていた。また、西への移動が盛んであった時期に、家族や友人と別れる思いを込めてフレンドシップ・キルトがたくさん作られたことがわかった。